

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	現代の国語	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	現代の国語(数研出版)		副教材等	新国語便覧(第一学習社) 総合文字力(尚文出版) LT 現代文 基本(浜島書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。	「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の考えを明確にするとともに、話の構成を工夫している。	文章の内容を踏まえ、積極的に具体的事例などを用いて考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	オリエンテーション 文化 「水の東西」 (山崎正和)	「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。	○			個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	
					○	筆者の意見を踏まえた事例について粘り強く考察し適切に説明しようとしている。	
5	思想 「大人になる」ための条件 (石井洋二郎)	「大人」の定義について、一般的な内容と筆者の考えを比較しながら理解する。	○			文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	
				○		「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している。	
					○	自分の考えが適切に伝わるように、主張や論拠の説明を積極的に補足しながら意見交換を行い、学習課題に沿って自分の考えをさらに深めようとしている。	
6 7	問題演習	これまでの学習で身につけた力の定着を確認する。	○			接続詞や指示語、敬語などの基本的な知識を身につけている。	
				○		「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している。	
					○	論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の考えをまとめようとしている。	
8 9	経済 「わらしべ長者」の経済学 (梶井厚志)	経済学の原則を「わらしべ長者」の昔話を用いた文章から読み取る。	○			文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	
				○		「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している。	

					○	自分の考えが適切に伝わるように、主張や論拠の説明を積極的に補足しながら意見交換を行い、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。	
--	--	--	--	--	---	---	--

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10 11	批評 『羅生門』の最後の一文 (半沢幹一)	「アイデンティティ」が、個人自らがつくるのではなく、情報システムの中で作られていることを理解し資料から読み取る。	○			情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		「書くこと」で、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫している。	
					○	具体的な話題について、マス・メディアに掲載された情報と、インターネット上で個人が発信している情報とを積極的に集め、課題に沿って考えたことをまとめようとしている。	
12	問題演習	これまでの学習で身につけた力の定着を確認する。	○			接続詞や指示語、敬語などの基本的な知識を身につけている。	
				○		「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している。	
					○	論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の考えをまとめようとしている。	
1 2 3	思想 他者を理解すること (鷲田清一)	他者理解の難しさや我々が取るべき態度について、哲学者である筆者の意見を読み取る。	○			主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	
				○		「読むこと」において、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	
					○	論理展開を押さえながら筆者の述べている内容を粘り強く読み解き、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	歴史総合	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	私たちの歴史総合(清水書院)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や特色などを、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第1篇 第1章 歴史と私たち 日本とスポーツの歴史 第2章 歴史の特質と資料 8月15日とそれぞれの「終戦」	スポーツと歴史との関連を考察して表現し、日本と世界の歴史の繋がりを理解する。「終戦」の持つ意義などを考察・表現し、歴史が資料に基づき叙述されていることを理解する。	○			スポーツの歴史や「終戦」を基に、歴史が資料に基づき叙述されている事を理解する。	定期考査 授業態度 ノート・プリント
				○		スポーツや「終戦」に関する複数の資料に着目して、資料の情報を考察し、表現している。	
					○	日本とスポーツの歴史や「終戦」の意味や意義について、主体的に追究しようとしている。	
5	第2編 第1章 18世紀までの世界 第2章 工業化と世界市場の形成	18世紀のアジアと欧米諸国における生産と流通、貿易などを基に、18世紀のアジアの経済・社会と欧米諸国との関りを多面的・多角的に理解する。	○			アジアと欧米諸国の貿易などの資料を基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。	
				○		アジア諸国とその他の国・地域を比較し、関係性を多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	18世紀のアジアに関して、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
6	第3章 国民国家と立憲体制	市民革命や日本の明治維新を基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。列強の進出と植民地形成、日清・日露戦争などを基に、帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。	○			市民革命や、日本の明治維新などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。	
				○		アジア諸国とその他の国を比較し、国民国家の特徴について考察し、表現している。	
					○	国民国家と立憲体制に関して、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
7	第4章 帝国主義とアジア、アフリカの変容	平等と格差の観点から、鉄道建設と近代化を主題に設定し、主題について多面的・多角的に考察、表現し、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解する。	○			平等と格差といった現代的諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	
			○		日本と清の鉄道建設の比較を通して鉄道建設と近代化について考察、表現している。		
8				○	鉄道建設と近代化のもたらす現代的な諸課題を主体的に追究しようとしている。		
9	第3編 第1章 第一次世界大戦と国際社会 第2章 1920年代の世界と大衆の時代の到来	第一次世界大戦前後の歴史を通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制の成立や大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。	○			第一次世界大戦の特質・展開や惨禍、大戦後の国際協調体制について理解する。	
				○		総力戦、国際協調体制の成立などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	国際連盟や国際法の意義を理解し、国際社会の一員として、課題を追究しようとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10	第3章 国際協調の挫折と2度目の世界大戦	世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策、第二次世界大戦の勃発などを基に、国際協調体制の動揺や第二次世界大戦の勃発の背景に関する事柄を理解する。	○			世界恐慌、第二次世界大戦などをもとに、当時の国際情勢や大戦の特徴を理解する。	定期考査 授業態度 ノート・プリント
11				○		各国の世界恐慌への対応、国際協調体制の動揺などを考察し、表現している。	
						○	
12	第4章 世界大戦がもたらしたものの	統合と分化の観点から、ナショナリズムと国際秩序の変化や大衆化を主題に設定し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。	○			ナショナリズムに基づく国家の統合や分化といった現代的諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。	定期考査 授業態度 ノート・プリント
				○		現代のナショナリズムに着目して、ナショナリズムと国際秩序の変化や大衆化について多面的・多角的に考察し、表現している。	
						○	
1	第4編 第1章 冷戦と国際政治	脱植民地化、冷戦下の地域紛争、核兵器の管理などを基に、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々、欧米やソ連の政策転換などを多面的・多角的に考察することを通して、国際政治の変容を理解する。	○			脱植民地化、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。	定期考査 授業態度 ノート・プリント
				○		地域紛争の背景、冷戦の影響などに着目し、地域紛争と冷戦の関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
						○	
2	第2章 世界経済の拡大と日本 第3章 冷戦の終結とその後の世界	石油危機、アジアの諸地域の経済発展、冷戦終結などを基に、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、市場経済の変容と課題を理解する。	○			石油危機、アジア諸地域の経済発展、冷戦終結などを基に、市場経済の変容と課題を理解する。	定期考査 授業態度 ノート・プリント
				○		アジアの経済発展の背景、資源・エネルギーと地球環境問題、冷戦の変容と終結に関して、多面的・多角的に考察し、表現している。	
						○	
3	第4章 現代的な諸課題の形成と展望 移民	歴史総合の学習のまめとして、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、主題について多面的・多角的に考察、表現し、歴史的経緯を踏まえて現代的な諸課題を理解する。	○			歴史的経緯を踏まえて現代的な諸課題を理解するとともに、設定した主題に関連する諸資料を活用している。	定期考査 授業態度 ノート・プリント
				○		事象の背景や原因、結果や影響などに着目し、現代的な諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	
						○	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	数学 I	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	最新 数学 I (数研出版)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	第4章 図形と計量 第1節 三角比	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	○			・三角比の相互関係を用いて、1 つの値から残り2つの値を求めることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・具体的な事象を三角比の問題として見ることができる。	
					○	・ θ の三角比が与えられたときに θ を求める際、図を積極的に利用しようとする。	
5	第2節 正弦定理・余弦定理	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。	○			・正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	
					○	・日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	
6	第5章 データの分析	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、考察するなどを培う。	○			・平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。	
					○	・データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。	
7	総合演習 第1章 数と式	既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。また、無理数の四則計算ができるようにする。不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。	○			・不等式の性質、1次不等式の解法を理解し、1次不等式を解くことができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・不等式の性質を、数直線と対応させて考察できる。	
					○	・連立不等式の解を考察しようとする。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8 9	総合演習 第2章 集合と命題	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	○			・共通部分、和集合、補集合を求めることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・ベン図などを用いて、集合を視覚的に考察することができる。	
					○	・日常語の「かつ」「または」との関連を認識しようとする。	
10 11 12	総合演習 第3章 2次関数	2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を再認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。また、2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解を深め、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	○			・2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解く方法を理解し、2次不等式を解くことができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。	
					○	・2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。	
1 2 3	総合演習 第4章 図形と計量	日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。また、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。	○			・正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	
					○	・日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	体育	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	なし			副教材等	なし

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	体づくり運動	・心と体の関係に気づき、仲間と交流する。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・自己のねらいに応じて効果的な成果を得るための適切な運動の行い方を理解できる。 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。 	授業態度 学習カード
	体育理論	・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できる。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えること。 ・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。 	
5	器械運動	<ul style="list-style-type: none"> ・(器械運動)技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動の観察、体力の高め方を理解する。 ・(陸上競技)記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につける。 ・(ダンス)感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・(器械運動)回転系の接転技群、ほん転技群の基本的な技、巧技系の平均立ち技群の基本的な動きを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。 ・(陸上競技)技術と関連させた運動や練習を繰り返したり継続して行ったりすることで結果として体力を高めることができることを理解できる。 ・(ダンス)イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表を理解できる。 ・(器械運動)自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。 	
6	陸上競技(競走・跳躍・投擲)						
7	ダンスから選択						
8							

		様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊り方を身につけて交流や発表する。				<ul style="list-style-type: none"> ・(陸上競技) 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。 ・(ダンス) 作品の創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えることができる。 	
					○	<ul style="list-style-type: none"> ・(器械運動・陸上競技・ダンス) 自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にできる。 	
9	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの技術と技能及び変化について理解できる。 ・運動の概念と自己の状況に関連付けたりして自己や社会についての課題を発見し他者に伝えることができる。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができる。 	
9 10 11 12	球技・武道から選択 球技(ゴール型・ネット型 ベースボール型) 武道(剣道・柔道)	<ul style="list-style-type: none"> ・(球技) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・(武道) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・(球技) 型や種類によって必要な体力要素がありその型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができる。 ・(武道) 伝統的な考え方は「道」を追及する大切な仲間であることを理解できる。 ・(球技) チームでの学習で状況に応じてチームや自己の役割を他者に伝えることができる。 ・(武道) 練習や試合の場面で自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案することができる。 ・(球技) 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にすることができる。 ・(武道) 相手を尊重し礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとするすることができる。 	授業態度 学習カード
10 11	陸上競技(長距離走)	<ul style="list-style-type: none"> ・記録の向上や競争を通して得られる楽しさや喜びに加えて、体力や技能の程度等に関わらず「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わう。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じてストライドやピッチを切り替えて走ることができる。 ・自己や仲間の動きを分析して良い点や修正点を指摘することができる。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることができる。 	
2	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツを行う際は気象条件の変化など様々な危険を予見し回避することについて理解できる。 ・運動やスポーツの活動時の健康、安全の確保の仕方について習得した知識を基に環境の異なる場所や変化を想定して危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えることができる。 ・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。 	授業態度 学習カード
2 3	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画たて、取り組む。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・体力の構成要素は健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることを理解することができる。 ・学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に応用することができる。 ・一人一人の違いを大切に、健康・安全を確保することができる。 	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	英語コミュニケーションI	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	VISTA English Communication I (三省堂)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きに関する知識を身につけ、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせて、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者とのかわりに着目して捉えることを通して、目的や場面、状況に応じた実践的なコミュニケーションに必要な資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を深めており、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面に応じて適切に活用できる技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考え、話し手や書き手の意図などを的確に理解しており、また、これらを活用して表現している。	外国語の背景にある文化について理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 ・ 5	LESSON 6 ・ Machu Picchu	世界複合遺産マチュ・ピチュに隠された謎と魅力を伝える発表から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。	○			マチュ・ピチュについて、完了形に注意しながら、内容を読み取ることができる。	定期考査 発問評価 提出物 小テスト
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
6・7	LESSON 7 Artificial Intelligence	AIについての発表から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。	○			AIについて、受け身に注意しながら、内容を読み取ることができる。	
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
8 ・ 9 ・ 10	LESSON 8 Is There a Santa Claus?	サンタクロースについての発表から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。	○			サンタクロースについて、関係代名詞に注意しながら、内容を読み取ることができる。	
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
11 ・ 12	LESSON 9 Kids' Guernica	ゲルニカについての発表から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。	○			ゲルニカについて、分詞・関係副詞に注意しながら、内容を読み取ることができる。	
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
1 ・ 2 ・ 3	LESSON 10 Ethical Fashion	エシカルファッションについての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。	○			エシカルファッションについて、比較の表現に注意しながら、内容を読み取ることができる。	
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	家庭基礎	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	家庭基礎自立・共生・創造(東京書籍)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識とそれらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域、社会の生活における課題を設定して解決策の構想、実践、評価・改善を行い、考察を論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	家庭科を学ぶにあたって 学校家庭クラブとホームプロジェクトについて	<ul style="list-style-type: none"> 学習の意義や内容・方法・評価を理解する。 学校家庭クラブとホームプロジェクトについて理解し、家庭科で学習したことを実践する態度が育つ。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。 	定期考查 授業態度 ワークシート 課題
				○		<ul style="list-style-type: none"> 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題について考えることができる。 	
					○	<ul style="list-style-type: none"> 自己の家庭生活や地域の生活に関心を持ち、意欲的に学習しようとする。 	
4 5	第1章 生涯を見通す	<ul style="list-style-type: none"> 自立した生活を営むために、生涯発達の視点から、ライフステージの特徴と課題を理解する。 生活課題に対して、意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解している。 	
				○		<ul style="list-style-type: none"> 自立への課題と関連付けながら自身の将来について考えをまとめることができる。 	
					○	<ul style="list-style-type: none"> 現在の自分や、将来の生活設計を考えることを、意欲を持って取り組んでいる。 	
5 6	第2章 人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 社会制度としての家族や家族と法律を理解するとともに、様々な生き方について考える。 家事労働・職業労働について理解し、家庭や社会における男女の共同とワーク・ライフ・バランスについて考える。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の課題について理解を深めている。 	
				○		<ul style="list-style-type: none"> 家族の形、家庭の在り方や役割について、変化の背景と絡めて考えることができる。 	
					○	<ul style="list-style-type: none"> 結婚、家族・家族の形、家族・家庭の役割について、自分との関りを含め、興味関心を持つようとしている。 	
6	第3章 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の心身の特徴と発達について理解し、子どもの親・家族・周囲の人々との関わり大切さを学ぶ。 子どもを取り巻く社会変化の現状を理解し、子育て支援の在り方を考える。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の心身の特徴や発達について理解し、乳幼児と関わるための基本的技能を身に付けている。 	
				○		<ul style="list-style-type: none"> 子どもを生み育てることの意義や、子どもを取り巻く課題と解決策について考えることができる。 	
					○	<ul style="list-style-type: none"> 生命の尊さや子どもを生み育てることの意義、子どもを取り巻く問題などについて、自分の現在・将来と結び付けながら考えようとする。 	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7	第4章 高齢社会を生きる	・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の心身の特徴を理解する。 ・高齢者福祉制度について学び、課題を考える。	○			・高齢者の心身の特徴について理解している。 ・高齢者を取り巻く課題について、改善に向けた取り組みを具体的に考えることができる。 ・高齢者を取り巻く問題などについて、自分の現在・将来と結び付けながら考えようとする。	定期考査 授業態度 ワークシート 課題
9	第5章 共に生き、共に支える	・一生を通じた社会保障制度を理解する。 ・ノーマライゼーションの実現に向けて実践的な態度を身に付ける。	○			・年金・健康保険・雇用保険や、福祉制度など、生涯の社会保障制度について理解している。 ・多様な人々と共存し、助け合っていくために必要な能力や方法について考えることができる。 ・多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域の役割について考えようとする。	
9 10	第6章 食生活をつくる	・栄養と健康の関係を理解し、日常の食生活を改善していく態度を身に付ける。 ・調理に必要な基本的知識と技術を習得する。 ・生涯を通して健康・安全で持続可能な食生活を営めるようになる。	○			・日常の食生活が重要であることを理解し、栄養や調理の基礎的知識を身に付けている。 ・食に関わる安全・環境・健康などの問題や自己の食生活の問題について思考し、望ましい食生活の在り方を考えることができる。 ・自分自身の食生活について関心を持ち、意欲的に改善・向上に努めようとする。	
11	第7章 衣生活をつくる	・被服の役割を理解し、適切な被服の選択ができるようになる。 ・被服材料の種類と特徴や被服の管理方法を理解し、入手・管理において知識を活用できるようになる。 ・持続可能な衣生活について考える。	○			・被服材料の特徴や管理の方法などを理解し、好ましい被服選択や管理ができるようになる。 ・衣生活に関わる安全・環境・健康などの問題について思考し、望ましい衣生活の在り方を考えることができる。 ・自分の衣生活を取り巻く状況について関心を持ち、意欲的に改善・向上に努めようとする。	
12	第8章 住生活をつくる	・住居の機能・役割や間取りについて理解し、ライフステージや家族構成に応じた住まい方を選択できるようになる。 ・安全で環境に配慮した住生活を理解し、今後の課題を考える。	○			・住居の機能・役割、ライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。 ・住生活に関わる安全・環境・健康の問題などについて思考し、望ましい住生活の在り方を考えることができる。 ・住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。	
1	第9章 経済生活を営む	・消費者には権利と責任があることについて理解し、消費者市民社会について考える。 ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。	○			・消費者の権利と責任について理解し、現代の消費生活の課題を認識することができる。 ・消費者としての自覚を持ち、消費者の権利と責任を考慮することができる。 ・消費行動や環境との関わりについて理解し、具体的に実践しようとする。	
2	第10章 持続可能な生活を営む	・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを考える。 ・持続可能な社会を目指した国際的な取り組みとその重要性について理解する。	○			・生活と環境の関わりや持続可能な消費について理解している。 ・消費行動と環境との関わりについて、生活と関連させながら課題をみつけ、解決の方向性を判断することができる。 ・持続可能な社会参画することへ意欲的に取り組もうとする。	
3	第11章 生活を設計する	・家庭基礎の学習を活かして、自分らしい生き方について考える。	○			・生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解している。 ・家庭基礎で学んだ知識や技術を確認し、これからの人生を考え、設計できる。 ・自己の生活を積極的にマネジメントしようとする。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	基礎看護	単位数	5単位	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	基礎看護 (実教出版)		副教材等	看護学入門6 基礎看護Ⅱ 看護学入門7 基礎看護Ⅲ (メヂカルフレンド社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付ける。 ・看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・基礎看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、日常生活の援助及び診療に伴う援助における看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
看護の社会的な役割や機能とそれに伴う責任を歴史的な経緯を含めて理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して、看護の共通技術を基に基礎的な援助に関する知識と技術を身に付けている。	援助を必要とする身近な事例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえて生活者の安全・安楽や生活の質の向上の視点から援助を考察するとともに、実施する援助の科学的根拠を明確にして問題を解決する力を身に付けている。	看護の本質の理解を基に望ましい看護観や職業観、倫理観を育み、人間愛を基盤とする豊かな人間性をもって、人々の健康の保持増進のためによりよい看護を目指し、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6 7 8	診療に伴う援助	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸・循環・体温調整 ・与薬 ・創傷管理 ・診察・検査・処置 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・診療に伴う援助について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・診療に伴う援助について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・診療に伴う援助について自ら学び、対象の安全・安楽を守り、回復の促進、穏やかな最期を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 技術到達度 小テスト
9 10 11 12	看護の共通技術	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・看護の共通技術について理解するとともに身に付けることができる。 ・看護の共通技術について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・看護の共通技術について自ら学び、対象に応じて実際の看護を適切かつ安全に展開できるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 技術到達度 小テスト
1 2	看護の本質	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・看護の本質について理解することができる。 ・看護の本質に関わる課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・看護の本質を深く理解するために自ら学び人々の健康の保持増進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	人体の構造と機能	単位数	1単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	看護学入門2 栄養・薬理 (メヂカルフレンド社)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、人体の構造と機能に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能について体系的・系統的に理解できるようにする。 ・人体の構造と機能に関連する生活行動や健康の基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・人体の構造と機能について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
人々の健康について考える科学的視点の一つとして、解剖生理学と栄養学の基礎的事項を人間の生活行動と関連付けて理解することによって、生活者である人間の健康状態を観察する知識を身に付けている。	人々の生活行動に関連する基本的な健康課題を発見し、人体の機能と構造の視点から捉え、看護の職業倫理を踏まえて、解決する力を身に付けている。	人々の健康の保持増進のために、人体の内容を活用する実践的・体験的な学習活動を通して、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
5 6 7	栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の働き ・栄養素と代謝 ・食生活と健康 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養について理解できる。 ・健康にかかわる栄養並びに食生活の基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・栄養について自ら学び、栄養の視点から人々の健康保持を目指す看護への活用に主体的かつ協働的に取り組もうとする。 	定期考査 授業態度 提出物 小テスト
9 10 11	栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと栄養 ・病態と栄養 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養について理解できる。 ・健康にかかわる栄養並びに食生活の基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・栄養について自ら学び、栄養の視点から人々の健康保持を目指す看護への活用に主体的かつ協働的に取り組もうとする。 	定期考査 授業態度 提出物 小テスト

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	1単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	看護学入門2 栄養・薬理 看護学入門8 成人看護Ⅰ 看護学入門9 成人看護Ⅱ 看護学入門10 成人看護Ⅲ (メヂカルフレンド社)			副教材等	なし

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、疾病の成り立ちと回復の促進に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の成り立ちと回復の促進について体系的・系統的に理解するようにする。 ・疾病の成り立ちと回復の促進に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・疾病の成り立ちと回復の促進について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、多様な人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
人々の健康状況と疾病の予防や早期発見、回復の促進について考える科学的視点の一つとして、病理病態学や薬理学の基礎的事項を人間の生活行動と関連付けて理解することによって生活者である人間の健康状態を観察する知識を身に付けている。	疾病の成り立ちや回復の促進に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえ、疾病の予防や早期発見、回復の促進に向けて解決する力を身に付けている。	人々の健康の保持増進のために、疾病の成り立ちと回復の促進の内容を活用する実践的・体験的な学習活動を通して、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6 7 8	各機能の障害	・神経機能の障害 ・免疫機能の障害 ・精神機能の障害	○	○	○	・各機能の障害について理解できる。 ・各機能の障害が心身に及ぼす影響を踏まえ、予防や健康管理について考えることができる。 ・各機能の障害について自ら学び、多様な人々の安全・安楽を守り、生体の回復の促進を目指して主体的かつ協働的に看護の実践に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 提出物 小テスト
9 10	各機能の障害	・運動機能の障害 ・排泄機能の障害	○	○	○	・各機能の障害について理解できる。 ・各機能の障害が心身に及ぼす影響を踏まえ、予防や健康管理について考えることができる。 ・各機能の障害について自ら学び、多様な人々の安全・安楽を守り、生体の回復の促進を目指して主体的かつ協働的に看護の実践に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 提出物 小テスト
11 12	疾病と薬物	・薬物の作用 ・薬物と生体の反応 ・薬物療法 ・薬物による健康被害	○	○	○	・疾病と薬物について理解できる。 ・疾病と薬物が心身に及ぼす影響を踏まえ、薬物を扱う看護の役割の重要性について考えることができる。 ・疾病と薬物について自ら学び、人々の安全を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	成人看護	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	看護学入門8 成人看護Ⅰ 看護学入門9 成人看護Ⅱ 看護学入門10 成人看護Ⅲ (メヂカルフレンド社)			副教材等	なし

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、成人看護の実践に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・成人看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・成人看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。
---------	--

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
対象となる年齢層が幅広く、生活形態の変化も大きい成人期の疾病予防や障害等に応じた看護について、具体的な事例を通して学習することによって、生活習慣や家事、仕事、子供の育児、親の介護等が成人期の健康に与える影響を理解し、健康の回復や保持増進に関わる技術を身に付けている。	成人期の健康課題について具体例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえ意思決定や行動変容を支援して、望ましい生活習慣の獲得、セルフケアを促す視点から援助を考察するとともに、実施する援助とその根拠を明確にして、課題を解決する力を身に付けている。	成人の健康課題の解決に当たっては、仕事や家庭、地域社会での役割と健康づくりの両立を目指し、主体的かつ協動的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6 7 8	機能障害のある患者の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・内部環境調節機能障害 ・栄養代謝機能障害 ・内分泌機能障害 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・機能障害のある患者の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・機能障害のある患者の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・機能障害のある患者の看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協動的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト
9 10 11 12	機能障害のある患者の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・脳・神経機能障害 ・排尿機能障害 ・運動機能障害 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・機能障害のある患者の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・機能障害のある患者の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・機能障害のある患者の看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協動的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト
1 2	機能障害のある患者の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・身体防御機能障害 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・機能障害のある患者の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・機能障害のある患者の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・機能障害のある患者の看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協動的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	小児看護	単位数	1単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	看護学入門12 母子看護 (メヂカルフレンド社)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、小児看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・小児看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・小児看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、小児の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
小児の成長・発達の過程を身体的・精神的・社会的側面から理解するとともに、成長・発達に応じた育児及び健康状況に応じた看護に関する知識と技術を身に付けている。	成長・発達の過程にある小児の健康課題の具体例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえ、小児の安全・安楽や権利擁護、成長・発達を促す視点から援助を考察するとともに、家族を含めて実施する援助とその根拠を明確にして課題を解決する力を身に付けている。	小児の健康課題の解決に当たっては、疾病・障害等の回復や健康管理とともに、小児の成長・発達の視点を重視し、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7	小児の健康と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の健康の特徴 ・小児の保健と福祉 ・小児看護の特徴 ・小児看護の倫理的課題 	○			・小児の健康と看護について理解できる。	定期考査 授業態度 提出物 発問評価 小テスト 技術到達度
				○		・小児の健康と看護に関わる多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	
					○	・小児の健康と看護について自ら学び、小児の健康の保持増進を目指して、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
8	小児各期の健康課題と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児期・乳児期 ・幼児期 ・学童期 ・思春期 	○			・小児各期の健康課題と看護について理解するとともに、関連技術を身に付けることができる。	定期考査 授業態度 提出物 発問評価 小テスト 技術到達度
				○		・小児各期の健康課題と看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	
					○	・小児各期の健康課題と看護について自ら学び、健康の保持増進を目指し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
9 10 11	診療を受ける小児の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・診療に伴う看護 ・急性期 ・慢性期 ・終末期 	○			・診療を受ける小児の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	定期考査 授業態度 提出物 発問評価 小テスト 技術到達度
				○		・診療を受ける小児の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	
					○	・診療を受ける小児の看護について自ら学び、小児の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	母性看護	単位数	1単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	看護学入門12 母性看護 (メヂカルフレンド社)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、母性看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・母性看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・母性看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、母性の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
健全な母性観・父性観を育み、これを基に具体的な事例を通して学習することによって、性と生殖に関わる健康の保持増進、生命の尊重及び人権の擁護を行うために必要な知識と技術を身に付けている。	母性に関する健康課題について具体例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえ、性と生殖に関わる健康、生命の尊重及び人権の擁護、文化や習慣の配慮、意思決定の支援やセルフケアを目指す視点からの援助を考察するとともに、実施する援助とその根拠を明確にして課題を解決する力を身に付けている。	母性の健康課題の解決に当たっては、性と生殖に関わる健康を目指すとともに、生命の尊重及び人権の擁護を重視し、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7 8	母性の健康と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・母性の概念 ・母子保健の動向 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ・母性看護の特徴 ・母性看護の倫理的課題 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・母性の健康と看護について理解できる。 ・母性の健康と看護に関わる多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・母性の健康と看護について自ら学び、母性の健康の保持増進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト 技術到達度
9	女性のライフサイクル各期の健康課題と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期 ・成熟期 ・更年期 ・老年期 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・女性のライフサイクル各期の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・女性のライフサイクルの各期の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・女性のライフサイクル各期の看護について自ら学び、母性の健康の保持増進を目指し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト 技術到達度
10 11	周産期の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期の正常経過と看護 (妊娠期の生理と妊婦の看護) (分娩期の生理と産婦の看護) (産褥期の生理と褥婦の看護) (新生児期の生理と看護) ・周産期の異常と看護 (妊娠期の異常と看護) (分娩期の異常と看護) (産褥期の異常と看護) (新生児期の異常と看護) 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・周産期の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・周産期の看護について自ら学び、周産期の健康の保持増進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト 技術到達度

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	精神看護	単位数	2単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	看護学入門13 精神看護 (メヂカルフレンド社)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、精神看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・精神看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・精神看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の心身の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
精神に障害等がある人と家族の苦悩について、具体的な事例を通して学習することによって、共感的に理解するとともに、精神障害の予防や早期回復、セルフケア、社会復帰等に関する知識と技術を身に付けている。	精神に障害等がある人の具体例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえ、人権の擁護や地域生活支援の制度の活用と生活の自立、セルフケアを目指す視点からの援助を考察するとともに、実施する援助とその根拠を明確にして課題を解決する力を身に付けている。	精神に障害等がある人の健康課題の解決に当たっては、社会生活への参加と自立、生活の質の向上を目指し、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7	精神の健康と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・精神の健康 ・精神機能の構造と発達 ・ストレスと危機 ・精神保健の動向 ・精神看護の特徴 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・精神の健康と看護について理解できる。 ・精神の健康と看護に関わる多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・精神の健康と看護について自ら学び、人々の心身の健康保持増進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 小テスト 提出物
8	精神障害の状況に応じた看護	<ul style="list-style-type: none"> ・検査 ・治療 ・急性期 ・慢性期 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の状況に応じた看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・精神障害の状況に応じた多様な課題を発見し、当事者の権利を擁護した上で、回復の促進並びに自立支援を目指して解決策を見いだすことができる。 ・精神障害の状況に応じた看護について自ら学び、当事者の多様な価値観等を尊重した上で、医療チームの一員として主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト
9	主な精神障害と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・症状性を含む器質性精神障害 ・精神作用物質による精神および行動の障害 ・統合失調症 ・気分障害 ・神経症性障害、ストレス関連障害 ・生理的障害、身体的要因に関連した行動症候群 ・成人の人格及び行動の障害 ・小児・青年期の精神及び心身医学的疾患 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・主な精神疾患と看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・主な精神疾患に応じた多様な課題を発見し、当事者の権利を擁護した上で、安全・安楽を守り、症状の緩和並びに生活の質の改善に向けて解決策を見いだすことができる。 ・主な精神疾患と看護について自ら学び、当事者の多様な価値観を尊重した上で、医療チームの一員として主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト
10	精神保健医療福祉の変遷	<ul style="list-style-type: none"> ・精神医療の歴史 ・精神に障害のある人の権利擁護 ・精神保健福祉制度の変遷 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化とともに変わってきた精神医療や関連する制度の概要について理解できる。 ・精神医療や関連する制度の実際について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・精神に障害等がある人の権利を擁護し、地域で自立した生活を目指す看護について自ら学び、精神保健医療福祉の他職種と連携して、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	看護臨地実習	単位数	8単位 (2,3学期)	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	看護学入門II 老年看護 (メヂカルフレンド社)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、臨地において実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地における看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・臨地における看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を探究し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・臨地における看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
臨地における実践的・体験的な学習活動を通して、臨地の施設・設備や社会資源を理解し、看護に属する各科目で習得した知識と技術の統合を図るとともに、看護を実践する際のリスクマネジメントを踏まえた知識と技術も身に付けている。	臨地における看護の対象がもつ様々な健康課題について、対象の理解を基盤とした上で必要な援助を探究し、倫理原則、科学的根拠、優先順位、社会資源の活用、対象の多様な価値観の尊重と意思決定の支援などを踏まえて解決する力を身に付けている。	多様な健康課題の解決に当たっては、臨地における実践的・体験的な学習活動を通して、看護の職業倫理、生命倫理、人権擁護などに基づく望ましい看護観を醸成し、看護職の果たすべき役割を踏まえ、保健医療福祉に関わる多職種と連携・協働し主体的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10 11 12	基礎看護臨地実習	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉施設の機能と看護の役割 ・対象の理解 ・看護におけるコミュニケーション ・日常生活の援助 ・看護の展開 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地における看護実践の基礎について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・臨地における看護実践の基礎に関する課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことができる。 ・臨地における看護実践の基礎について自ら学び、よりよい看護を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	参加態度 実習日誌 提出物 自己評価 技術到達度 指導者評価
1 2 3	領域別看護臨地実習	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護臨地実習 ・老年看護臨地実習 ・小児看護臨地実習 ・母性看護臨地実習 ・精神看護臨地実習 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域における看護実践と理論を結び付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・各領域における看護実践について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことができる。 ・各領域における看護実践について自ら学び、人々の健康を保持増進するために主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	参加態度 実習日誌 提出物 自己評価 技術到達度 指導者評価